

第5回 蕨戸田衛生センター火災に関する調査検証・再発防止対策会議 議事要旨

開催日：令和7年12月12日（金）14：00～15：40

場所：蕨戸田衛生センター組合 2階 大会議室

出席者：

委員：（学識経験者）八鍬委員

（蕨市） 加藤委員

（戸田市） 細井委員

（蕨戸田衛生センター組合）根津委員、山本委員、甲斐委員、上嶋委員、

事務局：（蕨戸田衛生センター組合）菊池課長補佐、青木係長、岡崎主任技術主査

欠席者： なし

配布資料：

第4回会議における確認事項に係る資料

資料1：再発防止対策等について

資料2：蕨戸田衛生センター火災に関する調査検証・再発防止対策会議報告書(案)

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

（1）第4回会議における確認事項についての報告

事務局より、資料1「再発防止策等について」の説明。

第4回会議での指摘を踏まえて、資料1は、下記2点の修正を行っている。

- ・P1の対策実施時期を「すぐに対応するもの」、「施設復旧のタイミングで対応するもの」、「新施設整備時に対応するもの」という3つの区分で記載。
- ・全体的な文言の修正、整理

・「新施設整備時」という言葉に唐突感があるため、現在行っている「施設整備基本構想」との関連性について記載したほうがいい。（委員）

→表現を見直す。（事務局）

・P1 8行目「各項目の～」、10行目「なお、～」について、内容を考えた方がいい。（委員）

→表現を見直す。（事務局）

・P3 「スプリンクラー等の設置を検討」とあるが、設備名を言及せずに、「その時点で最

良の消火システム」という表記がいいと考えるが、どうか。(委員)

→見直す。(事務局)

・建物についているスプリンクラーは、通常、可燃物が多くある場所、もしくは多数の人が通る場所に設置されるものだが、今回の出火場所である破砕機やコンベヤ廻りには、おそらく可燃物を置かないようにしていると思う。仮にスプリンクラーが設置されていても、天井からの散水では、出火場所の破砕機下のコンベヤに直接水が届かないため、コンベヤ火災において、消火効果を見込めないのではないかと考える。また、放水銃もごみピット火災には有効だが、コンベヤ火災にはあまり有効ではないと考える。(会長)

・資料 1 と資料 2 P25 は、表現が異なる部分もみられるが、同一の内容か。(委員)

→ほぼ同一の内容となっている。資料 1 は抜き出しているので、ブラッシュアップしている。(事務局)。

・見出しで、P3 「定期点検の実施」、P5 「体制の強化」については、言葉を付け足して具体的にした方がわかりやすいと思う。(委員)

→見直す。(事務局)

・P5 「今回の火災～重く受け止め～」の文が精神的な表現なので、検証会議の立場から客観的な表現に改めた方がいい。(委員)

→見直す。(事務局)

(2) 蕨戸田衛生センター火災に関する調査検証・再発防止対策会議報告書(案)について

事務局より、資料 2 「蕨戸田衛生センター火災に関する調査検証・再発防止対策会議報告書(案)」の説明。

・資料編の図面は、1 ページにつき 1 つの図面にした方がいい。(委員)

→見直す。(事務局)

・「はじめに」と「結びに」は、再検討したほうがいい。(委員)

→見直す。(事務局)

・「はじめに」の 7 行目 年度内順次再稼働となっているが、令和何年度なのか書いた方がいい。はじめに と結びに の内容を対応させたほうがいい。(委員)

→修正する。(事務局)

・P8 過去の発煙・発火事故件数のうち、消防への通報事案はあるか。(委員)

→通報した事案はない。(事務局)

- ・P17 手順(3)①の本文「…粗大受託者職員が火災発生箇所を探すため」という表現は、唐突すぎるのではないか。また、その粗大受託者と中央操作室から破砕機室に向かった焼却等受託者職員3名、粗大受託者1名はどういうやりとりをしたのか。また、その職員4名が破砕機室に到着した時間はわかるか。(委員)

→唐突な表現は修正する。最初に到着した職員と別行動していた職員同士は、顔を合わせていないため、やりとりはしていない。破砕機室に到着した時間について、正確なものはないが、当日通ったルートはわかるので、推定することは可能である。(事務局)

- ・P11 誤字(火災報知器→火災検知器)、火災検知器発報時の手順書は小さくて見にくい。また、火災センサーランプをアップにした写真では全体が見えないのではないか。手順書は本文に記載した方がいいと思う。

→修正する。(事務局)

- ・P19 検証の視点4 出火原因の書き方、「小型家電」、「二次電池」、「二次電池が入った製品」など似通った用語が出てくる点、両市での実施内容のバランスや構成を考えた方がいい(委員)

→検討する。(事務局)

- ・P29 ロードマップをもっと大きくしたほうがいい。(委員)

→修正する。(事務局)

- ・消防への通報体制は、従来通り建物の火災覚知システムの運用・管理を行っている焼却等受託者に一本化したほうがいいと思う。あと火災報知後の現場確認に割く人員は3人(中央操作室に1人、現場に2人)以上必要だと考える。今回、最初に破砕機室の扉を開けたのは1名であった。安全確保の観点からは、1名だと人身事故につながる可能性が高まる。また、新たな施設には、熱感知、火災検知、ガス検知など複数の覚知方式を併用することが有効だと考える。(会長)

- ・今回で会議は5回目となるが、細部の意見はまだ出そうなので、事務局で週内を目途に各委員から意見を収集し、反映させた最終版を作成し、会長に確認いただいた上で、委員に送付することとした。

4. 閉会